



©木村 護

寺岡清高

Kiyotaka Teraoka

早稲田大学第一文学部卒業。桐朋学園大学を経てウィーン国立音楽大学指揮科に学ぶ。

1997年イタリア・シエナのキジアーナ音楽院よりフランコ・フェラーラ大賞を授与され、1年間ロンドン・コヴェントガーデン、ミュンヘン・フィル等で研鑽を重ねる。

2000年ミトロプーロス国際指揮者コンクール優勝。

これまでに数多くの国内オーケストラとともに、フェニーチェ歌劇場管、サンクト・ペテルブルグ・フィル、ウィーン室内管、イギリス室内管を始め、ヨーロッパ各国のオーケストラへ客演している。

大阪交響楽団とは、2004年1月の正指揮者就任以来緊密な関係が続けており、2011年4月から2019年3月まで同楽団常任指揮者を務める。ウィーン在住。亀山市文化大使。

2023年3月公益財団法人伊賀市文化都市協会音楽アドバイザー就任。



©Kazuhiro Okumura

イリーナ・メジューエワ

Irina Mejeoueva

ロシア生まれ。

モスクワのグネーシン音楽大学でウラジーミル・トロップに師事。1992年、E.フリプセ国際コンクール（ロッテルダム）での優勝をきっかけに、オランダ、ドイツ、フランスなどで公演を行う。

1997年からは日本を本拠地として活動。バロックから近・現代までの幅広いレパートリーを手がけるが、近年再評価の進むロシアの作曲家N.メトネルの紹介者としても名高い。

2017/18年、東京文化会館で日本デビュー20周年記念リサイタル（全3回）を開催。2006年からは毎年京都でリサイタルを行うなど、精力的な演奏活動を展開している。

2006年度青山音楽賞。CD「ショパン：ノクターン集」は2010年度のレコードアカデミー賞（器楽曲部門）を受賞。

2015年、第27回ミュージック・ペンクラブ音楽賞。

著書に「ピアノの名曲」と「ショパンの名曲」（いずれも講談社現代新書）。



©飯島 隆

大阪交響楽団

Osaka Symphony Orchestra

1980年「大阪シンフォニカー」として創立。創設者である、永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。

2001年1月に、楽団名を「大阪シンフォニカー交響楽団」に、2010年4月「大阪交響楽団」に改称した。

2022年4月、新指揮者体制として、山下一史（常任指揮者）、柴田真郁（ミュージックパートナー）、高橋直史（首席客演指揮者）の3名が就任、さらなる楽団の飛躍が期待されている。

2006年4月、大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長 CEO（当時）樋口武男氏が運営理事長を経て、

2018年11月公益社団法人大阪交響楽団理事長に就任。

2020年10月に大和ハウス工業株式会社「代表取締役社長/CEO 芳井敬一氏」に理事長をバトンタッチした。

2023年3月、公益財団法人伊賀市文化都市協会、伊賀市と「文化のまちづくり」推進に関する連携協定を締結。

楽団公式ホームページ <http://sym.jp>（2023年4月現在）